

タケノホソクロバ成虫の相談

平成21年9月3日に成虫の検査依頼がありました。市民から「木や竹が生えているところに黒い虫が多く飛んでいて気持ち悪い」との相談でした。タケノホソクロバの雄成虫でした。体長が1センチメートルほどの小さな蛾（が）です。ホソクロバの名前から分かるように成虫の翅（はね）は、黒色で細くなっています。腹部が金属光沢を帯びた青色を呈することや雄の触角が櫛（くし）状になっているのも特徴です。



タケノホソクロバ雄成虫

タケノホソクロバ幼虫の相談

平成21年10月6日に幼虫の検査依頼がありました。市民から「隣家の玄関先や軒下から毛虫がたくさんぶら下がっている。以前にも同じような毛虫で皮膚炎を起こしたことがある」という相談でした。屋根からぶら下がっているとの相談内容から、以前にも紹介したヤネホソバを疑いました。しかし、持参された幼虫は、胸部や腹部が鮮やかなだいだい色で、各節には黒色のこぶ状の隆起がありました。タケノホソクロバの幼虫でした。黒色のこぶ状の隆起には、多数の毒針毛と呼ばれる短い棘（とげ）のような毛が密生しています。この毒針毛の根元の膨らみに毒液が蓄えられており、人が触れることによって、毒液が注入され、皮膚炎の原因になります。被害に遭うと激しい痛みがあり、赤くはれます。かゆみは、2週間から3週間続きます。



タケノホソクロバ幼虫
(右京保健所提供)

食草

蛾ばかりでなく昆虫などが餌にしている植物を食草といいいます。皮膚炎を起こすことで有名なチャドクガは、サザンカ、ツバキなどの茶の仲間を食草としています。同じく皮膚炎を起こすヤネホソバは、苔（こけ）を食草としています。このように蛾の種類によって、幼虫の食草の種類も異なります。今回のタケノホソクロバは、名前から分かるように、竹や笹を食草としています。こうした種類と食草の関係は、発生源の特定に役に立つ情報です。市民の方に「幼虫がうろうろと歩いている近くに笹や竹があるはずです。その笹や竹が発生源です」と説明したうえで、管轄の右京保健所に調査を依頼しました。



タケノホソクロバ幼虫の毒針毛

大量移動の原因

右京保健所から現場調査の報告が入りました。タケノホソクロバの幼虫の発生源は、庭の一角の笹の植栽でした。笹の多くの葉は、枯れたように白くなっています。これは、タケノホソクロバの食害の特徴です。葉脈といわれる部分を残し、葉の裏側の葉肉といわれる部分をせせるように食べます。そのために、葉が白く枯れたように見えます。既に多くの笹の葉は、食べつくされていました。そのためでしょう。新しい食草を求めて屋根や玄関先をうろうろと歩きだしたのです。今回のように食草を食い尽くし、食草から離れて大量に移動する事例は、過去に幾度か経験しています。土手や荒地に繁茂するイラクサを食草とするフクラスズメという種類の蛾幼虫が食草を食べつくし、付近の住宅や道路のうえを大量にうろうろと歩き出した事例が新聞記事になったこともありました。また、昨年、ある小学校で多くの児童がチャドクガによる皮膚炎の被害を受けました。原因は、食草の椿（つばき）の葉を食い尽くした幼虫が校庭をうろうろと歩き出したためでした。



被害に遭った笹の植栽
(右京保健所提供)